

1. ビジネスアイデアの概要

審査の観点

全体

重点テーマ	観光・レジャー
要旨	多摩織デザインのシェアサイクルを利用した観光サービス
社会課題	<ul style="list-style-type: none">現代ではデジタル化・DXの進展により、従来のライフスタイルから大きく変化したことで、多摩地域に歴史・魅力のある伝統工芸が存続の危機になっている。多摩地域にも八王子市を中心として江戸時代から続く「多摩織」があるが、現代において認知度が低いまた、多摩地域の過疎化や人口減少、高齢化により二次交通の整備が遅れていることで、訪れる観光客にとっても利便性が悪い。観光地としても地域経済活性化に向けて観光客を増やす対策が求められている
提供価値	<ul style="list-style-type: none">伝統工芸の維持とレンタサイクルを活用した地域経済の活性化を両立する観光体験の提供
ソリューション	<p>多摩織デザインを取り入れたシェアサイクルを利用した、多摩の主要観光スポットや工芸品をめぐる観光ツアーサービス</p> <ul style="list-style-type: none">「多摩織」デザインを取り入れたシェアサイクルを利用した、多摩地域に点在する主要観光スポットの回遊と、「多摩織」の製作体験を組み合わせた観光ツアーを企画・販売する「多摩織」をシェアサイクルのサドルやハンドル等に用いることで、ツアーのコンセプトに合致する特徴的なシェアサイクルを提供する
アイデア発案の経緯・動機	木曾漆器を用いたロードバイクを見る機会があり、「多摩織」も組み合わせることができないかとの発案に至る。同時に、製作体験を行う「多摩織」の生産者から、「交通手段がなく体験に来れない観光客がいる」との話を聞き、シェアサイクルとして「多摩織」をデザインに活かした自転車を用いた観光ツアーを考えるに至る。

Sample

※1 環境・エネルギー、物流・モビリティ、健康・医療、子ども・教育、安心・安全、観光・レジャー、コミュニティ活性化、ビジネスモデル改革、人材確保・育成

※あくまで作成例であり、公開情報を基に作成したイメージ

2. 対象とする社会課題

審査の観点

- ①事業趣旨との合目的性
- ③マーケットとの適合性

課題の
詳細

■課題1：歴史ある伝統工芸である多摩織の認知度の存続危機

- 従来のライフスタイルから大きく変化したことで、着物や羽織の需要は低下するとともに、「多摩織」の認知度も低く、存続の危機に陥っている。
- また、「多摩織」生産事業所の減少や担い手の若返り等の課題があり、文化継承に向けて「多摩織」を活用した新たな製品の検討、PRが必要となっている。

■課題2：二次交通の不足による観光地としての低い集客性

- 奥多摩地域等の交通空白地帯や駅からの二次交通が不足している。
- このため、多摩地域を訪れる観光客にとっては、観光地を周遊する際に利便性が悪く、多摩地域への訪問にあたっての障壁となっている。

※詳細については次頁に補足

対象とする
社会課題

アイデアの
対象となる顧客
(誰に)

■多摩地域内を気軽に周遊したいが交通手段がない観光客

現状は観光地と観光地を結ぶ交通手段が不足しているため、多くの多摩地域への観光客が一つの観光地の往復のみにとどまっている。地域観光を気軽に楽しみたい観光客の観点で十分とは言えない。

弊社が実施したヒアリング調査によれば、「駅からの移動手段がない」「免許がないため観光地を周遊する際の時間的な制約が大きい」「個性的な移動手段を確保したい」等の声が聞かれた。

■二次交通の不足により観光客の呼び込みに課題を抱える伝統工芸品の工房が点在している観光地

現状は伝統工芸品への認知度が低く、また製作体験を実施している工房はあるものの、交通が不便であるために参加者は限られている。また、二次交通の不足により周辺観光地からの立ち寄りも行われておらず、観光地として地域観光活性化や伝統工芸品の認知度向上の観点で十分とは言えない。

参考資料

社会課題に対する補足

「多摩織」認知度の低さ

伝統工芸品として認定されている織物の中で、京都の「西陣織」以外の認知度はそれほど高くなく、「多摩織」についてはほとんど知られていない。 <伝統織物の認知度>



「多摩織」事業所の減少

1970年代には、八王子市を中心に「多摩織」の事業所は約500カ所存在していたのに対し、現在は20カ所にまで減少している

<多摩の織物事業所数>



多摩地域の二次交通不足

南多摩エリアでは、最寄り駅までの距離2km以上の世帯割合数は24.4%。奥多摩エリアでは、駅やバス停まで遠く、急峻な地形のエリアも多く、公共交通へのアクセスが不便な地域が存在

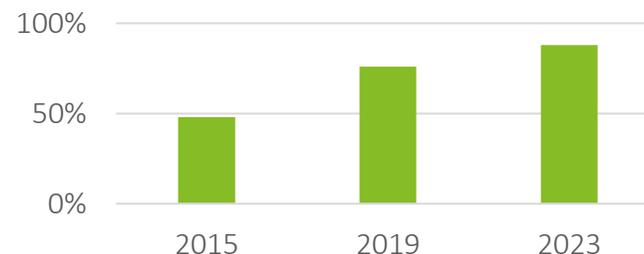
市場規模・成長性に対する補足

Sample

国内・海外観光客数の増加と個別手配の増加

国内旅行者、海外からのインバウンドいずれもコロナ禍からの回復傾向となっている。また、個別手配での観光者数も増加しており、都内外やインバウンド観光客の誘客をはかることで、市場規模の拡大が期待できる

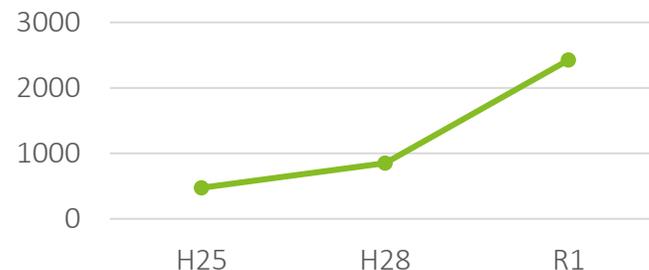
<個別手配をして訪日した人の割合の推移>



シェアサイクルの利用者数の増加

シェアリング市場自体が近年拡大。シェアリングシステム技術の進歩やインフラ整備の積極的な取り組みが行われているため、シェアサイクルはさらなる市場規模の拡大が期待できる

<ポート設置数の推移>



3. ビジネスアイデアの提供価値・ソリューション

審査の観点

②アイデアの革新性

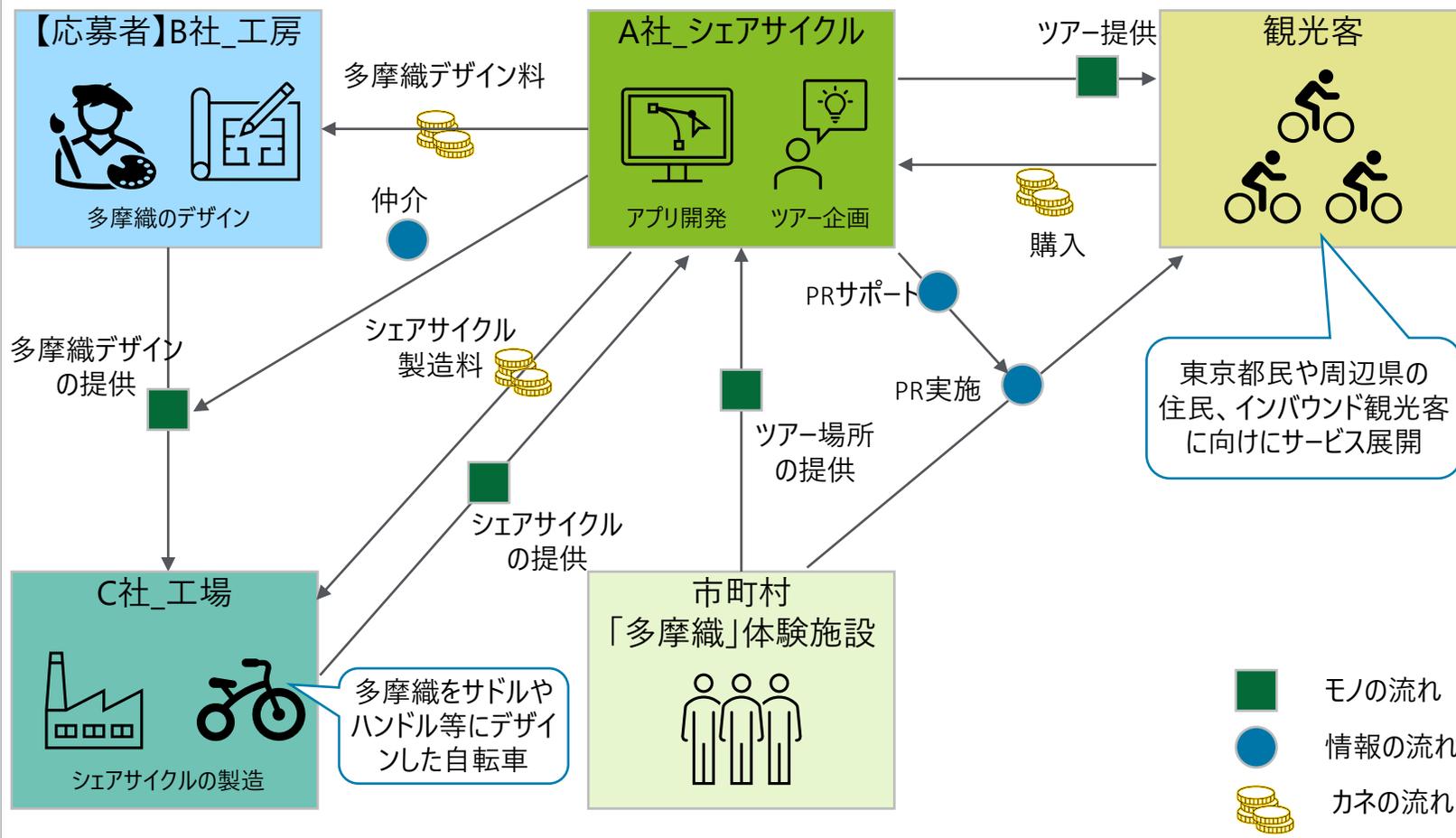
④実現可能性

サービス内容
(何を)

・多摩織デザインを取り入れたシェアサイクルを利用した、多摩の主要観光スポットや工芸品をめぐる観光ツアーサービス
 移動手段が限られ周遊できない観光客に対して、環境や健康に配慮した二次交通手段・ツアーを提供し、気軽に地域を周遊する機会を提供する。また、二次交通不足により観光客の集客に繋がられていない多摩織の工房に対しても、二次交通手段の提供とツアーに「多摩織」の製作体験を組み込むことで、伝統工芸品への認知度アップに寄与する取り組みとなる。本サービスの提供により、伝統工芸の維持と周遊による地域経済の活性化を両立することができる。

Sample

サービス内容
(どのように)



東京都民や周辺県の住民、インバウンド観光客に向けてサービス展開

参考資料

新規性・独自性・比較優位性の補足

- **観光客の興味を引くユニークな体験の提供**

「伝統事業×シェアサイクリング事業×イベント事業」という新しい事業は従来の観光ツアーとは異なるユニークな体験を提供でき、シーズを開拓できると考えられる。個人ごとの旅行の自由度が一定程度あることで現代の多様化した旅行方法に対応し、イベントとしての楽しみも得られる。従来の旅行ツアーや単体でのイベント開催に比べて優位性があると考えられる

- **シェアサイクルと観光ツアーの専用アプリの開発・提供**

多摩織デザインを取り入れたシェアサイクルの観光ツアーを利用するにあたり専用のアプリを開発・提供する。観光ツアーの予約からシェアサイクルの利用を1つの専用のアプリで可能にすることで、他にはサービスを提供することができず、優位性が期待できると言える

- **本チームの総合力による独自性・優位性**

歴史的な伝統産業工房でありながら、現代にフィットしたB社（応募者）の工芸デザインは他社に真似できない強みがある。数々のオリジナル企画を行っているA社・特注デザインを製造可能なC社と座組を組むことで、デザインから情報発信・顧客への価値提供まで一貫通貫のサービス提供を可能とする

特に、座面やサドルに「多摩織」を活用し、移動手段とツアーのコンセプト（「多摩織」を体験を含む多摩地域の周遊観光）が合致する取り組みは他のシェアサイクルや観光ツアーとは一線を画す、本チームならではの取組となっている



Sample

Image

4. ビジネスアイデアの実現可能性・希望する費用支援

審査の観点

- ①事業趣旨との合目的性
- ④実現可能性

Sample

検証フェーズに進むにあたって
解決もしくは、
取り組むべき
内容

<法的な観点> 多摩織デザインのシェアサイクルの特許や商標登録

- 製品開発やデザインの段階で、関連する特許や商標の調査を行い、製品が既存の知的財産権を侵害しないか確認する
その上で専門家や法律事務所に依頼し、開発した製品やデザインに関する特許や商標を登録する

<実証上の観点> 実証先及び連携協力先の確保

- 現在、シェアサイクル事業A社、デザイン工房B社、シェアサイクルの製造を担うC社での連携体制は構築できている。
しかし、多摩織を製造する地域企業や八王子織物工業組合との連携体制は構築できておらず、ツアー造成にあたって協力を仰ぐ必要がある。
- また、シェアサイクルの設置場所や公道での走行等について、対象となる自治体との調整も必要となる
- このため、ハンズオン支援を通じて、各主体との連携体制の構築を行い、検証に向けた座組を構築する

<試作上の観点> 機能性・安全性を満たしたデザイン性のあるシェアサイクルの製造

- 想定顧客となる観光客に対するマーケット調査を踏まえ、シェアサイクルのデザインを確定する
- デザイン確定後、製造に取り掛かる際に、デザイン性と機能性・安全性を満たした製品の製造に時間を要する懸念がある
- このため、機能性・安全性を満たしたデザイン案を複数提示した上でのマーケット調査を行うことで対応する

希望する
費用支援項目

1. 外部委託費：マーケット調査費「想定利用者に対するニーズ調査（ヒアリング・アンケート等）費」（50万円）
2. 外部委託費：特許・商標登録調査費「開発した製品やデザインに関する特許・商標等の調査」（30万円）
3. 事業費：開発試作環境整備費「開発用PC備品等購入費・材料購入費」（20万円）